リーフレット 永都 NAGAOKA-kyō 発掘ニュース Vol.8

2008年3月

財団法人向日市埋蔵文化財センター

旧石器
縄文
弥生
古墳
飛鳥 白鳳
奈良
長岡京 (784～794年)
平安
鎌倉
室町
江戸
明治 昭和
BC
AD

長岡京跡左京一条大路を探る

向日市鶏冠井町十相（かいで じゅそう）

▲ 発掘された一条大路と東二坊坊間東小路交差点（西から）

長岡京のかたちを求めて　古代都城の基本構造は、碁盤の目状に設計された条（東西）坊（南北）道路とそれらが交差してできる宅地から成り立っています。この平面規格は、均等な宅地割と規則的な条坊道路の配列を基本理念として指向されますが実現が難しく、都城の造営ごとに試行錯誤が繰り返されました。このため、各都城で条坊の規格が少しずつ異なります。長岡京跡の発掘では、条坊道路の両端に設けられた排水溝（側溝）を確認することに重点を置いた調査が行われ、長岡京の条坊復原と施工範囲や宅地・官衙の内容を把握することにつとめています。

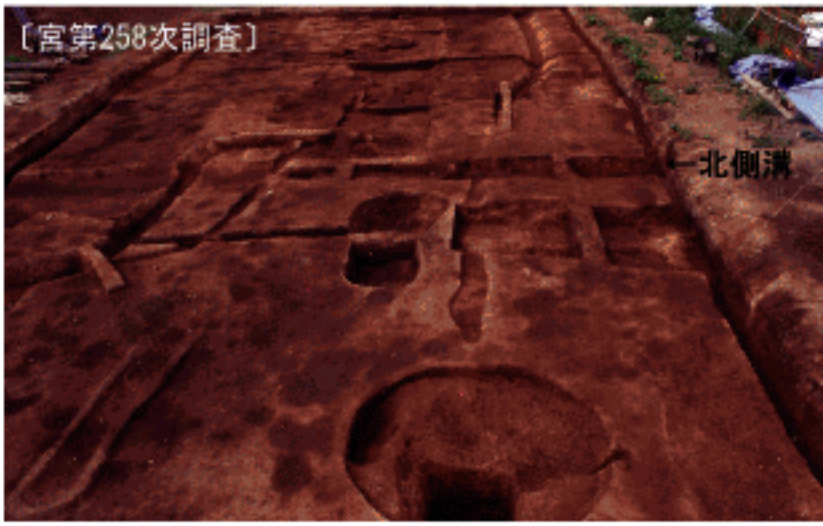
一条大路の所在　向日市民体育館の東側で行われた長岡京跡左京第525次調査では、一条大路（路面幅約24m）と東二坊坊間東小路（路面幅約9m）の交差点が確認されました。この二つの道路が交差するところでは、大路の側溝が優先され小路の路面を横切る形で設けられていました。今回見つかった一条大路の南側溝は、幅約3.2m、深さ0.6mの規模であることがわかりました。南北を往来する時は、この側溝に橋などを渡して通っていたものと思われます。調査では巨石が3個南北に列んで見つかりました。飛び石か橋の基礎石であった可能性が考えられます。

このような遺構確認の発掘調査は、長岡京跡の実態を究明し、遺跡の保存と活用に向けた基本情報を入手するためにたいへん重要な作業になります。

写真提供：財団法人京都市埋蔵文化財研究所

▲ 一条大路とその周辺の景観（東から）
長岡京跡の一条大路は宮城の北面にあたる場所に設けられている可能性が高くなってきました。ここでは、検出された主要な遺構の成果を紹介します。

◀長岡京跡最西端の南側溝検出地点（西から）
条坊側溝の検出事例としては、最も長い総延長700mに及びます。左京と比べると４m南側で見つかっており道路の東西軸が少し西側へ振れていることがわかりました。



▲宮城北面を画する一条大路の北側溝（南から）
幅1.2～2.5m、深さ0.8mの大きさで、総延長約31mにわたり確認されました。この北側に築地塀があったものと思われます。

◀左京第525次調査地の西側の様相（西から）
溝幅約３mで宮城東面にあたる東一坊大路までのびていくが、その路面上は横切らないもと考えられます。

発行 財団法人向日市埋蔵文化財センター
京都府向日市鶏冠井町上古23番地
TEL (075) 931-3841
2008. 3. 1000S